



Beyond 2009 日本でのキックオフ 「世界天文年 2009 グランドフィナーレ」

安藤 享平

〈世界天文年 2009 日本委員会企画委員/郡山市ふれあい科学館
〒963-8002 福島県郡山市駅前二丁目 11-1 ビッグアイ 20 階〉
e-mail: kyoando@spacepark.city.koriyama.fukushima.jp

2009 年も残すところあとわずかとなった 2009 年 12 月 5 日 (土)・6 日 (日), 兵庫県神戸市内において「世界天文年 2009 グランドフィナーレ」が世界天文年 2009 日本委員会主催, 日本天文学会の後援などで開催されました。

この 2 日間は「閉幕」の行事ではなく, 世界天文年を契機にして生まれた「資産」を今後を生かしていくための企画として行われました。初日は「語り合おう 世界天文年」と題して, 世界天文年の日本における活動を振り返り今後へとつなげていくための議論の場, 2 日目は「体験! 感動! 世界天文年」と題して, 一般の方々に世界天文年のさまざまな活動を凝縮した体験型のイベントを開催しました。2 日目も多くの方々にご参加いただき, 内容面でも大きな成果がありました。ここでは初日の内容をご紹介します。

・「語り合おう 世界天文年」(12 月 5 日)

午前にはまずシンポジウム I として「世界天文年をふりかえって」が行われました。海部宣男世界天文年 2009 日本委員会委員長による講演, 特徴的な公認イベント実施状況の報告を踏まえての議論では, 世界天文年を契機とした新たな取り組みや, 成果が多く寄せられ, 今後も続けていくために何が必要であるか, 具体的な意見が出されました。



グランドフィナーレ宣言をする海部宣男委員長。

午後は「世界天文年 2009 グランドフィナーレセレモニー」が開催され, 世界天文年にご協力いただいた方々への感謝状贈呈, 世界天文年 2009 エッセイ賞授賞式, 若田光一宇宙飛行士がフライト時に持参し「宙博」で返還された「世界天文年旗」の披露などが行われました。

その後パラレルで, ポスターセッション, 世界天文年公認書籍成果報告会などが並行して開催されました。なかでも, 2009 年の大きなイベントであった日食に関連しての「日食はすぐにやってくる! 2012. 5. 21 安全な日食観察のための緊急宣言」セッションでは, さまざまな問題提起と議論がされ, 「2012 年金環日食の安全な観察のための宣言」が出されました。(末尾参照)

再び参加者が集合してのシンポジウム II 「つなげよう! 世界天文年」では, 多彩に展開された天文学の普及, 国際的な連携, そして研究者, 愛好家, 施設などのさまざまなつながりを 2010 年に以降につなげていくための議論が行われました。午

前の議論を振り返り、5名の登壇者による問題提起、そしてさまざまな立場から「次への提案」が会場から次々と出されました。それを踏まえ、海部委員長から宣言「世界天文年 2009 から未来へ」が発表されました。（末尾参照）

この2日間を通して、改めて世界天文年が日本国内外にもたらした天文教育・普及活動の広がりを実感するとともに、2010年が天文学の普及、理解を深めていく活動の重要な年になることと思えます。

●2012年金環日食の安全な観測のための宣言

私たちは、2012年5月21日の金環日食にむけて、安全な日食観測方法の検証に努め、ひろく周知していくことを誓います。子どもから大人まですべての人が、楽しく安全に日食を観察できるようになること、それが私たちの願いです。

2009年12月5日

世界天文年 2009 グランドフィナーレ
日食セッション「日食はすぐにやってくる」
参加者一同

●世界天文年 2009 グランドフィナーレ宣言
「世界天文年 2009 から未来へ」

1609年、ガリレオ・ガリレイは望遠鏡で宇宙を観測し、またたく間に大発見を重ねました。それから、400年。望遠鏡とともにめざましく広がった宇宙は、いまなお、驚きに満ちています。このガリレオの観測を記念し、世界中の人々が改めて宇宙に眼を向け新鮮な驚きと感動を分かち合うことを願って、世界天文年 2009 が実行されました。天文学研究には手が届かない発展途上国も含めて148カ国が参加し、真に世界的な活動として、大きな成功を収めつつあります。

日本では、「ガリレオの驚きをみんなの驚きに！」を合言葉に、研究・教育・普及の

人々が集い、多彩な企画の数々が実践されてきました。各地で天体観望会が開催され、多数の人々が宇宙と触れ合いました。皆既日食は残念な天候でしたが、かつてない大勢の人が観測に挑戦しました。小型望遠鏡づくり、大学や自治体での多彩な講演が、数多く行われました。アジアの星の神話や伝説を集めるアジア共同計画が、展開されました。18に及ぶ日本委員会主催企画、2700件以上の公認企画、600万人を超える「星を見ました！」報告や、5千万件のホームページへのアクセス、これらは、全国津々浦々の人々が宇宙に触れ、世界天文年を楽しんだことを示しています。アジアやアフリカ、南米の国々との協働も、大きく展開されました。この世界天文年の活動を通して、宇宙が豊かな喜びを与えてくれることを、私たちは改めて実感しました。生命や人間が宇宙の歴史の中で育まれたことに思いを馳せ、それを世界の人々が共有すること。科学が飛躍的に進歩した今も、自然と宇宙は新鮮な驚きの宝庫です。国際天文学連合は、各国の要請により世界天文年の活動を2010年も継続するとともに、発展途上国の天文教育や研究を支援することを決議しました。それは、「国際天文学連合10年事業計画」として推進されます。私たちも、国内はもとよりアジアや全世界の人々と、学び、考え、前進する喜びを、宇宙を通して分かち合ってゆきたいと思えます。世界天文年 2009 を閉じるにあたり、この1年がもたらした驚きと感動、連携とネットワークをさらに広げ、2010年以降も未来に向けた活動とその発展を目指すことを誓い、ここに宣言します。

2009年12月5日

世界天文年 2009 グランドフィナーレ@神戸
世界天文年 2009 日本委員会